大阪府教育センター附属高等学校
校長　中濵　秀徳

令和２年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

変化の激しい社会の中で、豊かな感性、確かな学力、あくなき探究心をもって生き抜く子どもたちを育てる学校
１　学びに向かう意欲を高め、自己実現に導く教育活動を展開する。
２　確かな信頼関係を基盤に、豊かな人間力を育む教育活動を展開する。
３　先進的・先導的な教育実践に、教育センターと一体となって取組みを進める。

２　中期的目標

１　確かな学力の育成
（１）基礎学力の定着をめざした授業研究・改善への取組み
ア 知識・技能の活用を図り、未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を育む。
イ 学びを活かそうとする意欲の向上を図る。
ウ 読解力の育成・充実を図る。
※学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」（H29：64.9%、H30：54.7%、R01：53.9%）を前年度比で増加させ、令和４年度には 70%以上にする。

２　教育センターと一体となった授業研究
（１）先進的・先導的な教育実践や授業研究を教育センターと協働で行い、その成果を発信する。
ア カリキュラム・マネジメントの研究・実践を重ね、成果を発信していく。
イ 観点別学習状況評価についての研究・実践を行い、成果を発信していく。
ウ 実力テスト・授業研究月間等を活用した授業改善の手法を実践し、成果を発信していく。
（２）探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。
ア 「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。

３　多様な価値を認める人間性のはぐくみ
（１）誰もが個性や趣向を肯定され、他人を尊重し、多様性を認めて共生する集団づくりを促進する。
ア 安心して学校生活が送れる居場所としての集団づくりを進める。
イ 人権教育を基盤とした生徒指導と細やかな生徒観察により、課題の早期発見に努める。
ウ 情報リテラシーの育成を図る。
※学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定的回答を（H29：82.3%、H30：82.6%、R01：81.6%）を前年度比で増加させ、令和４年度には 85%以上にする。
※学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定的回答を（H29：66.8%、H30：63.2%、R01：60.8%）を前年度比で増加させ、令和４年度には 70%以上にする。
（２）ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。
ア 探究ナビをキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む。
イ 自ら学びに向かう力を育成し、授業以外での学習習慣を付けさせる。また、関西の中堅の大学への進路実現を希望者の 75%以上、難関大学等への合格者を輩出する。
ウ 中高連携を進め、教育相談体制のさらなる充実を図る。
※学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答を（H29：72.3%、H30：73.4%、R01：65.6%）を前年度比で増加させ、令和４年度には 75%以上にする。

４　安全で安心な学びの場づくり
（１）生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。
ア すべての教職員が危機意識を持ち、危険予知に関する知識と緊急事態への対応能力を向上させる。
イ 生徒が気軽に相談できる環境を整備する。
ウ いじめを見逃さない教職員集団を作る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　　年　　月実施分］	学校運営協議会からの意見

大阪府教育センター附属高等学校

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
１ 確かな学力の育成	（１）基礎学力の定着をめざした授業研究 ア）知識・技能の活用と思考力・判断力・表現力の育成 イ）学びを活かそうとする意欲の向上 ウ）授業以外の学習習慣の定着と学ぶ力の育成 エ）読解力の育成	（１）基礎学力の定着をめざした授業改善への取組み ア）授業研究委員会、教科会議において、学力生活実態調査や実力テスト等の結果を分析し、学んだ知識・技能の活用を想定した授業づくりを進める。 イ）各教科で付けたい力を生徒に伝え、各教科での学びを活用できるような課題を取り入れ、意欲を向上させる。 ウ）入学当初の授業以外の学習時間を維持し、年次進行とともに増えるよう学習習慣を定着させる。また、適切な課題を設定し、授業以外に学習しやすい環境を整える。 エ）すべての教科で、読解力の育成をめざした取組みを実施する。読書等、文章を読むことを啓発するとともに、引き続き図書室の整備を進める。	ア）考査問題に活用力をみる設問を取り入れるとともに、アンケートにより、生徒の変容を見る。授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。（令和１年度 3.1） イ）学校教育自己診断（生徒）で「授業はわかりやすく、教え方に工夫をしてくれる先生が多い」の肯定率 60%以上（令和１年度 53.9%）「頑張ろうと意欲をかき立てられる授業がある」の肯定率 50%以上（令和１年度 46.4%） ウ）アンケート調査で実態を把握し、ほとんど学習しない生徒の数を、前年度比で減少にさせる。 エ）図書室の利用者数を前年比の同規模を維持する。（R01：2,399 人、H30：441 人）※含む授業	
２ 教育センターと一体となった授業研究	（１）先進的・先導的な授業研究及び授業実践 ア）カリキュラム・マネジメントの研究・実践 イ）外部テスト等を活用した授業研究・改善 （２）探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践 ア）「社会人基礎力」の育成	（１）先進的・先導的な授業研究や授業実践を教育センターと協働で行い、その成果を校内で共有するとともに発信する。 ア）学年別年間指導計画をもとに、各教科での学びを共有し、教科間で補完し合いながら学べるようにする。 イ）学力生活実態調査等の結果から、明確となった課題で共有し、各教科の授業研究に生かす。 （２）探究ナビを教科横断型の教科として研究・実践を行う。 ア）各教科で「社会人基礎力」（実社会で必要かつ役立つ力）の育成を意識した内容を授業に取り入れ、成果を検証する。	（１） ア・イ）生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる」の全平均が、前年比を上回る。（令和１年度 3.1） （２） ア）生徒への授業アンケートで「知識や技能が身に付いたと感じる。」の全平均が、前年比を上回る。（令和１年度 3.1）	
３ 多様な価値を認める人間性のはぐくみ	（１）多様性を認めて共生する集団づくり ア）居場所としての集団づくり イ）課題の早期発見 ウ）情報リテラシーの育成 （２）ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成 ア）活用型の授業の推進	（１）誰もが個性や趣向を肯定され、他人を尊重し、多様性を認めて共生する集団づくりを促進する。 ア）より良い人間関係が構築できるように、クラスづくりの導入となる活動を取り入れ、安心感のある集団づくりをめざす。人権ホームルームや各授業において、積極的に発表したり、意見が言いやすい雰囲気づくりをめざす。 イ）支援の必要な生徒の情報を、担任会や教育支援委員会を中心に共有し、課題が深刻化しないようなに努める。 ウ）あらゆる教育活動を通して、適切な情報の収集、発信、活用について啓発を行う。 （２）ガイダンス機能の充実と自ら学ぶ生徒を育成する。 ア）探究ナビ（人とつながる、社会とつながる、未来を拓く）をキャリア教育の柱とし活用型の授業に取り組む。	（１） ア）①学校教育自己診断（生徒）で「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率 80%以上（令和１年度 74.8%） ②学校教育自己診断（生徒）で「クラスには自分の居場所がある」の肯定率 85%以上（令和１年度 81.6%） イ）学校教育自己診断（生徒）で「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」の肯定率 64%以上（令和１年度 60.8%） ウ）SNS 等、ネット上での課題の減少 （２） ア）①学校教育自己診断（保護者）で「将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の肯定率 83%以上（令和１年度 79.2%）	

大阪府教育センター附属高等学校

			②同診断（生徒）で「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率84%以上（令和１年度 79.7%）	
	イ）学ぶ力の育成	イ）学ぶ意欲を喚起し、生徒の進路実現を図る。	イ）①生徒への授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持つことができたと感じている。知識や技能が身に付いたと感じる。」の全平均 3.3 以上（令和 1 年度 3.1） ②関西の中堅の大学への進路実現を希望者の 75%以上。また、難関大学等への合格者を輩出する。	
	ウ）教育相談体制及びガイダンス機能の充実	ウ）①多様な進路を実現するため、相談しやすい体制づくりを進め、将来を見据えた科目選択を支援する。また、相談体制を整えるための教員研修を実施する。 ②複数顧問等による役割分担、終了時間を定めた会議の運営により、相談時間が確保できるようにする。	ウ）①学校教育自己診断（保護者）で「学校は、生徒をきめ細かく、多面的にサポートしている」の肯定的回答 69%以上（令和１年度 65.6%） ②学校教育自己診断（生徒）で「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定率 65%以上（令和 1 年度 63.4%）	
４ 安全で安心な学びの場づくり	（１）生徒が安全で安心な学校生活のための環境整備 ア）危険予知及び緊急事態への対応能力の向上 イ）相談できる環境の整備 ウ）いじめの未然防止・早期発見・早期対応のための教職員集団	（１）生徒が安全で安心な学校生活を送ることができるよう環境を整備する。 ア）河川堤防の決壊等、懸念される現実的な災害を想定した訓練を実施する。 また、安否確認体制を整える。 イ）教科の準備室や職員室付近で気軽に質問や相談ができる場を拡充する。 ウ）アンケート等を効果的に活用し、課題の把握に努め、教育支援委員会等により教職員間で情報を共有し、深刻な問題に発展しないよう未然防止に努める。	（１） ア）計画どおりに実施する。 イ）空き教室等の有効的な活用を進める。 ウ）アンケート等への生徒からの発信量や内容を検証する。	